



昭和48年（1973年）生
 1996年 早稲田大学教育学部 卒業
 1996年 凸版印刷株式会社 入社
 2001年 有限会社丸石製作所 入社
 2011年（公社）三浦青年会議所 第50代理事長
 2013年 三浦市議会議員（一期）
 2015年 神奈川県議会議員 初当選

所属：建設企業常任委員会
 東京オリンピック・パラリンピック・ラグビーワールドカップ特別委員会
 かながわ自民党青年総局幹事長

三崎魚市場の競争力強化へ！

三崎漁港のマグロを中心とした水産業の振興について

（予算委員会 3月13日質疑）

今年三月に完成した冷凍マグロ専用「三浦市低温卸売市場」に伴い、三崎魚市場の取扱高を増やすために三浦市は各団体一丸となって漁船誘致に取り組んでいます。漁船誘致に関して、県として具体的にどのように取り組むのか問いました。

【滝口水産課長答弁】 県といたしまして、漁港機能の強化につきましては、具体的には先ほど委員からお話のありましたマグロ専用の魚市場の整備にあわせまして、今後駐車場の整備ですとか、または利用するトラックの動線をうまく流れるような、漁港道路の整備等を今後進めていく予定でございます。

【石川質問】 今後、漁港の機能強化ということについて、答弁いただいたのですが、自分の中では、そういったハード面の援助も必要なのですが、今求められているのは、ソフト面なのだと思います。全国の漁港は本当に競争が激しく、実際に船が来てもらわない限りは市場の魚がふえないという現状です。今、三浦市では商工会議所と一緒に、市長が全国の漁港に出かけて営業していくですとか、報償金をつけるとか

という議論もあります。ぜひそういったところにも、県が積極的にかかわっていただいて、取り組みに参画していただきたいと思いますが、どう考えていらっしゃるでしょうか。

【滝口水産課長】 県といたしましても、「三崎漁港振興協議会」でマグロ漁船の誘致について検討しておりますので、その中に県も入りまして、一緒になって検討していきたいと考えております。



石川たくみ事務所

電話：046(888)1310
 FAX：046(876)8708

住所：三浦市初声町下宮田489-11長嶋第2ビル2階
 takumi.ishikawa.16 @takumixp

石川たくみ で検索！

討議資料

かけはし

神奈川県議会議員
 石川たくみ活動報告

Vol. 12

2018年5月
 すべては三浦のために



予算委員会 3月13日の質疑

三浦縦貫道路高円坊までの区間 平成31年度中の完成へ

建設・企業常任委員会にて早期完成を強く要望

三浦縦貫道路Ⅱ期区間の完成は三浦市民の悲願であり、物流・交流機能の改善や災害対策が図られ、産業、経済推進等に多大な効果が期待されます。

Ⅱ期区間（三崎口駅付近国道134号まで総延長4.4km）のうち、高円坊までの北側区間（林の出口から高円坊の市道14号までの延長約1.9km）について、平成16年から先行して整備を進めてきました。

北側区間では用地取得は全て完了し、「船久保遺跡」の埋蔵文化財調査、その他大規模土工や橋りょう工事など、平成30年3月時点の事業進捗率は60%という状況です。

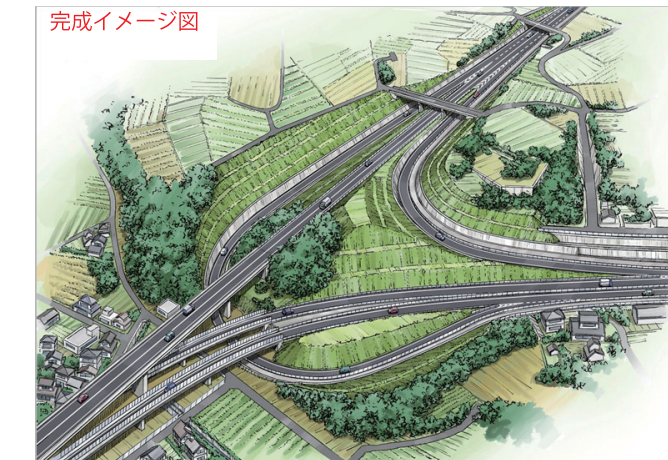
【橋りょう工事始まる】

平成29年度から橋りょう工事は、林出口から国道134号に下りるオフランプや横須賀市道をまたぐ、橋長145メートル、幅員10.7メートルの鋼構造の橋げたを製作、架設するものです。工期は平成31年11月29日までとなっております。橋りょう工事は、車が通行する現道のすぐ脇で橋を架けていくため、安全管理が大変難しいところです。全体工程のうち下り車線を、1年間の架設工事の中の延べ40日程、夜間のみ通行止めにして施工しますが、それ以外のほとんどの作業は、現道の車を通行させながら施工しなければならないため、極めて厳しい安全管理が必要となります。また、現場付近は住宅地であり、鋼構造の橋りょうは架設時に騒音や振動対策も必要になるため、難易度が高い工事となります。そのため、現場の交通への安全対策や、周辺住宅地への騒音・振動対策などを適切に講じられる技術的能力を持つ者の施工が必要となります。

【遺跡発掘調査を終えて本格工事へ】

「船久保遺跡」埋蔵文化財調査は、平成23年度から実施していますが、当初想定されていなかった遺跡が発見され調査範囲が広がったため、大幅に工期が延長されてきました。終点側、初声側の丘陵地については発掘調査が完了していますが、起点側、林側の丘陵地については本年度も引き続き調査を実施しており、これで新たな遺跡が発見されなければ、現在の調査をもって完了する予定です。これ以上工事が遅れないよう、発掘調査が終わったところから速やかに工事に着手するなど、現場の段取りを工夫しながら進めています。地元の皆様の協力を得ながら、平成31年度中の供用を目指し、しっかり取り組んでいただくよう要望しました。

※オフランプとは…自動車用高速道路の出口のこと



東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けたバリアフリーの取り組み

福祉タクシー車両導入に補助金

(予算委員会 3月13日質疑)

東京 2020 大会真の成功に向けては、オリンピックのその先 2020 年以後、県民にとってどんなレガシーを残せるのか、非常に大事だと考えています。障がい者、高齢者、外国人等誰もがその人らしく生活できる社会を目指し、共生社会実現に向けたバリアフリー対策について質問しました。

オリンピック組織委員会は昨年 3 月、輸送手段、バリアフリー基準並びに関係者の接遇トレーニング等に活用する指針として、「東京 2020 アクセシビリティガイドライン」を策定。オリンピックを契機にバリアフリーに向けた環境整備を進めることで、障がいの有無にかかわらず、全ての人がお互い人格と個性を尊重し合う共生社会の実現に貢献することを目指しています。

【オリンピック会場のバリアフリー化】

セーリング会場となる湘南港については、具体的な配置計画や選手、観客等の動線はこれから組織委員会から示されることになっており、今後ガイドラインを満たすように、必要な改修を行い、誰もが楽しめる大会を目指して取り組んでいきます。

【福祉タクシー車両導入に補助金】

平成 30 年度には、ユニバーサルデザインタクシーを導入する新規事業「福祉タクシー車両導入促進事業費補助」が追加されました。福祉タクシー車両は、移動に制約のある障害者や高齢者の社会参加を促進する上で大変有効な手段です。この事業では福祉タクシー車両を導入するタクシー事業者や低廉な料金で高齢者や障害者の生活を支える福祉有償運送事業者が補助対象となります。福祉タクシー車両と一般的なタクシーの購入費用の差額（約 120 万円程度）、これに対し国庫補助 60 万円に上乗せ補助として 15 万円を、福祉有償運送事業者には国庫補助がないため、30 万円を事業者に補助します。福祉タクシー車両の導入が拡大することで、障害者や高齢者の活動範囲が広がるだけでなく、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、神奈川に来られる国内外からの観光客も含め、誰もが容易に移動し、活動できる環境の整備につながります。

こうした取り組みを通じ、ともに生きる社会の実現を目指します。

福祉タクシーの台数が増えることも大事ですが、利用を促すシステムも大事だと考え、例えば民間と連携して、福祉タクシーコールセンターをつくるなどして、大会中の運営体制を整えることで、より利用者が福祉タクシーを使いやすくすることができ、それによって周辺観光地誘客にもつながることになります。ともに生きる社会かながわの実現のために、バリアフリーのまちづくり推進のオリンピックを目指し、レガシーを残すべく、積極的に取り組むよう要望しました。



ウインドサーフィンワールドカップ横須賀大会とオリンピックの連携を

連携や機運醸成の取り組みについて質問しました

(予算委員会 3月13日質疑)

昨年、ウインドサーフィンワールドカップ横須賀大会が、日本では 24 年ぶりに開催されました。ウインドサーフィンは、オリンピックにもセーリング競技の中に R S : X 級というウイ



ンドサーフィン種目があります。協会やルール等違う部分もありますが、風の力を利用して、帆に受ける力を推進力にかえるセーリングという意味では同じです。ぜひオリンピックのセーリング競技とウインドサーフィンワールドカップ横須賀大会と連携できるのではないかと考え、連携や機運醸成の取り組みについて質問しました。

答弁【オリンピック・パラリンピック課長】それぞれの大会を周知するため、広報等で連携することは非常に効果的であると考えております。そこで、例えば、県や横須賀市の広報紙やホームページ、さらには両大会実行委員会ホームページ等を相互に活用するなどの連携を図ってまいりたいと考えております。また、現地でもというお話がございましたが、5 月のウインドサーフィンワールドカップの競技会場において、例えばセーリング競技に関するブースの出展やセーリングとウインドサーフィンの両競技の選手によるトークショーなど、P R イベントの開催について実行委員会と調整してまいりたいと考えております。

地球温暖化への適応策について

農水産業や自然災害への対策を！

(予算委員会 3月13日質疑)

横浜地方気象台の観測では、過去 100 年で気温が約 1.8 度上昇しているなど地球温暖化が着実に進行しています。

私の地元でも近年海水温の上昇に伴い、海域の海草が死滅してしまう磯焼けが発生したり、農水産業の影響も出てきています。また昨年 10 月本州上陸としては史上最強クラスと言われる台風 21 号が大きな爪跡を残しました。

地域温暖化への対策としては、温室効果ガス排出を削減する「緩和策」の取り組みが中心ですが、今世界や国では、既にあらわれていたり、中長期的に避けられない地球温暖化の影響に対する「適応策」の重要性が増してきています。「適応策」について県の取り組みについて問いました。

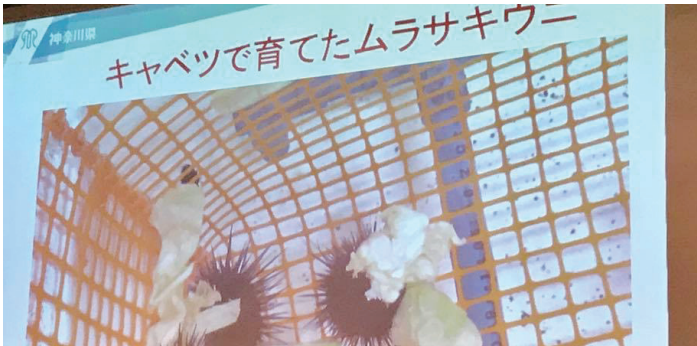
【磯焼け対策】

磯焼けは、これまで三浦市の金田湾から葉山町にかけて 10 地区で発生が確認され、中には数年ほとんど海草が生えていない場所が広がるなど深刻化している地区もあります。

磯焼け対策として、海藻を食べてしまうアイゴやガンガゼなどを除去することが有効で、漁業者が除去活動に取り組んでいます。県では、国や市とともに除去活動に対し財政的な支援を行うとともに、県の水産技術センターが効果的な除去方法などを助言することで、城ヶ島の成功例のように一部海域で護岸の回復が見られてきました。

県産キャベツを活用したムラサキウニ養殖の研究も磯焼け対策の一つです。海藻を食べてしまうムラサキウニですが、食べる身が少ないことから商品価値がなく、漁業者が海中でつぶして除去している状況です。水産技術センターの研究で、キャベツを与えて養殖することで商品化できる見込みが出てきました。ウニ類の除去は漁業者にとって大きな負担ですが、ムラサキウニが収入源となることで、磯焼け対策を継続的に実施できる可能性があります。

ウニ類の除去の効果調査も行っており、どのぐらいの密度まで減らせば藻の回復ができるか調査し、効率的な対策が行われるようにしていきます。また、アイゴの生態調査も実施し、磯のどこに多く出現するのか調べ、効率的に除去できるように取り組んでいきます。



【高潮対策】

台風 21 号では、三浦市内沿岸部において高波・高潮による浸水で家屋や畑、漁港等大きな被害を受けました。温暖化による気候変動で高潮リスクが非常に高まっており、今後も強い台風の増加や海面の水位上昇など懸念されます。沿岸部では、高波や高潮による浸水被害の増大や砂浜の減少などの影響が考えられます。

現在神奈川県としては、高波や高潮の対策として、海岸の護岸整備などの工事、浸食された砂浜を回復させるための養浜工事を実施しており、引き続きこうしたハード対策にしっかりと取り組んで参ります。

またソフト対策として、円滑な避難のために想定する最大規模の高潮による浸水の区域や深さなどを示した浸水想定区域図（高潮マップ）を作成、公表することになりました。

まずは東京湾沿岸について、平成 30 年度中の公表を目指し、また相模湾沿岸についても今年度検討に着手し、早期の公表を目指していきます。

昨年 9 月末、三浦市では時間あたり降水量 87 ミリの観測史上最大の豪雨によって、住宅の浸水や国道が冠水、土砂災害と分野における適応策について、普及啓発や具体的施策等積極的な取り組みを要望しました。

